

平成18年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	知能ロボットによる模倣の構成論的研究	研究代表者名	佐藤 知正
-------	--------------------	--------	-------

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア () 予定以上に達成した
- イ (×) 概ね予定どおり達成した
- ウ () 一部不十分である
- エ () 達成していない

意見：
当初の研究目的の(1)-(3)の項目や形式的模倣は概ね達成されたが、(4)の行動模範システムの実現や知能の根源にまで踏み込んだ高次の模倣の実現には達していない。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア () 十分に貢献できた
- イ (×) 概ね貢献できた
- ウ () 一部貢献できた
- エ () 貢献できていない

意見：
模倣という問題を取り上げたことは、ジェスチャ表現理解・創出などの他の分野の研究・発展に貢献した。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア () 非常に高く評価できる
- イ () 概ね高く評価できる
- ウ (×) 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
各項目において成果をあげたが、全体としてロボット知能の構成法における「模倣」を新しい学問分野として確立するにはもう一歩の努力が必要と言える。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (×) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
研究成果の公表に関しては活発である。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A +	期待以上の進展があった
×	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

人間の知能の特色としての模倣能力に着目し、これをロボット上に構成する方法論を確立する
とした研究に重点的に取り組んだことには大きな意義がある。

いくつかのアプローチによってこれを達成しているが、本研究のまとめというべき行動模倣学
習システムを実現するという点や、「模倣」を新しい学問分野として確立する点で、さらなる今後
の研究に期待したい。